

「気持ちの切り替えが大切です」

笠間市立病院

安達 晴美
あだち はるみ

冬の厳しい寒さも遠のいて少しずつ暖かくなり、春を感じるようになりました。4月は入学式や入社式の行事が行われ、新しい環境で生活をスタートさせる方が多くいる季節です。不安な気持ちもあると思います。勉強や部活動、仕事など、新たな目標に向かって、「よし、頑張ろう！」という前向きな気持ちのほうがいいのではないのでしょうか。しかし、これからの生活の中で、思い通りにいかないことや、困難な出来事にあうこともあるでしょう。そのような時、たいいていの人は、「諦めよう」とか「がんばっても無理」と考えてしまうと思います。そんな時に思い出していただきたい言葉があります。それは「あきらめない心」です。あきらめない心とは、取り組んでいる物事に対して途中で放棄せずに、最後までやり通うそうとする心意気のことです。

私は、2月に伊藤真波さんの「あきらめない心」という講演を聴講しました。伊藤さんは、看護学生だった20歳の時に事故で右腕を失いましたが、強い精神力と持ち前の明るさで、日本で初めての義手の看護師となりました。また、リハビリの一環として始めた水泳で、障害者水泳に本格的に取り組み、北京・ロンドンパラリンピックに出場しました。しかし、ここまでの道のりは、想像を絶するほどの努力が必要だったことが、お話の内容からひしひしと感じられ、胸が痛くなるほどでした。どうしてここまで強くなることができたのでしょうか。それは、心配をかけた両親を安心させたい、自分は一人ではない、支えてくれる人がたくさんいるという思い、そして、なによりも中学生からの夢であった看護師になりたいという「あきらめない心」をもっていたからです。目標や夢の大きさは人それぞれ違うと思いますが、「あきらめない心」で、一人でも多くの方が、目標達成できますように、そして夢が叶いますように願っています。

【問い合わせ】市立病院

TEL0296-77-0034

笠間の歴史探訪 41

芭蕉の句碑（一ツ葉について）

夏来てもたゞ一ツ葉の一ツかなの句碑が愛宕山神社本殿北側の飯綱神社境内（階段上左側）にあります。



句碑

芭蕉の句集『曠野』所収で、貞享五年（元禄元・一六八八）に現在の岐阜県長良川付近の山路をたどった時に詠んだものです。

芭蕉没後百回忌に、茨城町野曾の佐久間青郊によって建てられました。（実際には佐久間家が類焼で全焼したため、二年後の寛政七年・一七九五・建立となる。）

ところで「一ツ葉」とは、どんなものなのでしょうか。植物図鑑では、ウラボシ科の常緑多年生シダ。一枚づつ直立、暖地の山野に自生し観賞用としても栽培されていました。

漢名は、石韋（せきい）。韋とは（なめし・そむく）意。漢方薬での生薬名。『神農本草経』の中に収載されています。過去には利尿・治淋薬として用いられていました。

別名は大葉石韋・飛刀劔・石皮・ひとつば（石韋）とあります。今では愛宕山に「一ツ葉」は無いそうです。

佐久間青郊の『三百六十日々記』（寛政五年元旦から十二月十九日まで）には、碑の建設に際し、一ツ葉について調べた記録があります。三月十八日のところに、

雨。「一ツ葉」の不審暗れる。

夏来ても只一ツ葉の一ツかな此句の弁知らず。人も知りがたし。医学を開くと、『石韋ヒトツバ山中ノ石ノ上ニ生ズ。長一尺余。毛アリ黄毛也。ヒロサ一寸アマリ。裏ニ毛アリ黄毛也。此草ハ深山ニアリ。人ノ声水音ノ響聞コユル可ノ所ハ薬力ウスシ。』とあります。

古書『神農本草経』は、中国最古の医学書で、薬草について詳しく書かれています。神農とは、中国の伝説上の帝王です。

この外、笠間市には芭蕉の句碑が二つ有ります。

○ 笠間稲荷神社・藤棚下
しばらくは花の上なる月夜かな

○ 玄勝院

古池や蛙飛び込む水の音
(市史研究員 松本兼房)



一ツ葉